

地域子育て支援拠点研修〈青森開催〉

《開催概要》

- 開催日：令和元年9月28日（土）10:00～16:00
- 会場：アピオあおもり 2階 イベントホール
（青森市中央3丁目17-1）
- 主催：NPO法人子育てひろば全国連絡協議会
- 後援：（社福）全国社会福祉協議会・青森県・青森市
- 協力：NPO法人子育て応援隊ココネットあおもり
- 参加人数：94名



〈プログラム〉

■開会挨拶

野口比呂美 NPO法人子育てひろば全国連絡協議会 副理事長

この研修会は、厚生労働省の委託を受け、子育て家庭を地域で支え合う仕組みの基盤を強化するもので、地方での開催機会は限られている。この機会に行政説明や拠点の最新の事例など多くの情報を得てほしい。

また、本日はワークもあるので、大いに交流や情報交換ができる。ぜひ持ち帰り、自分たちの拠点での活動の参考になればと願っている。



■プログラム1 行政説明

「地域子育て支援拠点事業と利用者支援事業」

【説明】香取 徹さん 厚生労働省子ども家庭局子育て支援課 課長補佐

子育て、子育て支援に関する意識調査から、孤立化する子育てと負担感の増大が課題となっており、政策として「子育て支援の場」を地域に広げていく必要がある。

そのことを踏まえて、地域子育て支援拠点事業と利用者支援事業の事業概要・目的・課題や今後について説明がなされた。



1. 地域子育て支援拠点事業

地域子育て支援拠点事業には、「①子育て親子の交流の場の提供と交流の促進 ②子育て等に関する相談、援助の実施 ③地域の子育て情報の提供 ④子育て及び子育て支援に関する講習等の実施」の4つの基本事業がある。また、一般型と連携型の実施概要や、実施か所数の推移、都道府県別の設置状況、運営主体別・実施場所別・事業類型別の実施割合などについても説明を行った。

2. 利用者支援事業

利用者支援事業は、子育て家庭や妊産婦が、教育・保育施設や地域子ども・子育て支援事業、保健・医療・福祉等の関係機関を円滑に利用できるように、身近な場所での相談や情報提供、援助等必要な支援を行うとともに、関係機関との連携調整、連携・協働の体制づくり等を行うことを目的としている。

子ども・子育て支援新制度においては、市町村子ども・子育て支援事業計画と利用者支援事業が車の両輪のように機能することで、地域の子育て家庭にとって適切な施設・事業の利用が進むことが期待されている。

3. 補助制度と今後のあり方

「地域子育て支援拠点事業」を継続的に実施するために必要な改修や備品の購入に対する補助や、同事業及び「利用者支援事業」の事業所を開設する際に必要となる施設の改修・備品の購入に対する補助のほか、外国人に対する支援、ICT化の推進のための補助もあるので、ぜひ活用していただきたい。

また地域子育て支援拠点の利用状況等に応じた職員配置と収支状況に関する調査について、利用親子組数と職員配置別に見た活動状況等の特徴などをまとめた。この調査結果についても参考にしつつ、今後の補助のあり方について検討していきたい。

4. 幼児教育の無償化

2019年10月から3歳から5歳までの保育の必要なすべての子ども、及び0歳から2歳までの住民税非課税世帯の保育の必要な子どもについて幼稚園、保育所、認定こども園が無償化され、認可外保育施設や一時預かり事業等も無償化の対象となる。

5. 児童虐待防止対策

昨今の虐待相談件数の急増等をふまえ、児童虐待防止対策の抜本的強化をはかっていく。子どもの権利擁護の観点からも、子育て世代包括支援センターや乳幼児健診の場、地域子育て支援拠点、保育所、学校等も活用して体罰禁止及び体罰によらない子育て等の推進と普及活動を行っていく。

■プログラム2 講義

「ガイドラインをもとに地域子育て支援拠点の基本を学ぶ」

【講師】 新澤拓治さん 社会福祉法人雲柱社 施設長



子育て支援事業における市区町村の役割が強化される中、地域子育て支援事業の果たす役割は今まで以上に社会的な要請が高まっている。

大きなポイントとして、主体は市区町村であるということである。市区町村が、地域子育て支援拠点事業にしっかりと関わっていく中で、利用者支援事業や一時保育の事業等、いくつかの機能を合わせ持つ多機能化と相談業務やアウトリーチ、地域支援などの機能強化も図られることを期待したい。

また、地域子育て支援事業を実施する上で、「基本4事業」の土台がしっかりとしていることが重要である。改めて「基本4事業」をとらえなおしてほしい。ガイドラインの改訂版ではとりわけ乳幼児の子ども達へのかかわりの重要性が記されている。在宅育児の割合が高い0～2歳児と関われる地域子育て支援拠点事業の重要性を改めて考えてほしい。

また、地域子育て支援拠点は親同士の出会いと交流の場である。支援者の役割は親と子どもの最大の理解者であり、地域の人と人との関係を紡ぎだすことである。受付では温かく迎え入れる、来る前の不安をおもんばかる等の配慮の積み重ねが安心感を醸成する。

■プログラム3 パネルディスカッション

「子育て家庭の現状に応じた地域子育て支援拠点の役割」

【パネリスト】 山崎 純さん NPO 法人子育て応援 Seed 理事長

久保田正美さん NPO 法人子育て応援隊ココネットあおもり 理事

野口比呂美さん NPO 法人やまがた育児サークルランド 代表

【コメンテーター】 新澤拓治さん 社会福祉法人雲柱社 施設長

【コーディネーター】 松田妙子さん NPO 法人せたがや子育てネット 代表理事

【話題提供】 NPO 法人子育て応援 Seed 理事長 山崎 純さん

秋田市の子育てに関する課題や、就学前児童の親に実施した子ども・子育て支援に関するニーズ調査から、子育て応援 Seed では「居心地のよい場所を共につくる」をモットーに秋田駅前の商業ビルの6階で秋田市子ども広場を運営している。

2011年11月にオープンし、Seedは初年度と、2017年から委託運営をしている。

子ども広場は1月1日のみ休館日で、一時預かりもあり予約なしでも利用できる。

木のぬくもりが感じられる造りになっており、優しく温かいゆっくりくつろげる場所であるように、手作りの装飾も工夫している。イベントの際は、子育ての楽しさを共につくれるよう、利用者にも簡単な役割分担をする等の工夫をしている。

心がけていることは、どんな利用者でも肯定的に迎えること。ほとんど年中無休のため、朝の始業前を活用し、任意参加で内部研修を行い課題について話しあうなど、スタッフの質の向上に努めている。

子ども広場内の木の遊具づくりは障害者支援施設と、利用者の入園相談には保育コンシェルジュに広場に出向いてもらうなど、外部との連携にも力を入れている。子育て家庭の現状に応じた支援ができるように、地域や行政との信頼関係を築きながら、広場利用者である子育て中の人の声を行政に伝えていくよう努めている。



【話題提供】 NPO 法人子育て応援隊ココネットあおもり 理事 久保田正美さん

ココネットあおもりの主な活動内容は、スリーステップサイクルと名付け、「学ぶ」NPプログラム、「集う」つどいの広場「さんぽぽ」・県立保健大学での「ココかれっじ」、「寄り添う」ホームスタート、などの活動をしている。

青森市つどいの広場「さんぽぽ」は、平成30年1月4日に市役所の移転に伴い市役所内の広場としてリニューアルオープンした。

広場事業と青森市役所駅前庁舎内託児事業の2つの事業を同じスペースで行っている。

青森市は、豪雪地帯で子育て中の冬の外出が困難なこと、県庁所在地で通勤族が多いこと、広場の利用状況のデータなどに基づき、さまざまな行事・講習会を実施し、乳児の親子の交流の場「赤ちゃん待ち合わせ」、通勤族のママの情報交換の場や「こそだてお役立ちマップ」の作成の他、ねぶた祭の情報を観光課からパンフレットを入手し利用者へ提供している。また、多胎家庭、低体重児、発達の問題、外国人家庭等、育児への負担感の大きい家庭への地域資源の紹介・情報提供も行っている。妊婦さん向けに妊娠中から広場につなぐ事業を実施しているが、残念ながら参加者が集まらず、今後はより工夫を加え実施していこうと考えている。

スタッフの関係性が利用者の支援にも反映されるので、スタッフ同士が信頼し合い働きやすい職場であることをとても大切にしている。子育て中のスタッフも働きやすいようなシフトの工夫や研修参加の奨励、月1回、終業後に20名のスタッフ全員参加のミーティングを実施し情報共有を行っている。



【話題提供】NPO 法人やまがた育児サークルランド 代表 野口比呂美さん

「子育てランドあ〜べ」は平成14年6月、山形市中心市街地の元百貨店ビルを活用してオープンした。平成29年には商店街振興組合駐車場新築に伴い移転した。ビルの中ではなく様子がわかる1階になったことで、入りやすくなったと好評。

おやこ広場では、交流・相談の場、育児情報の提供、親子広場でのサークル活動の受け入れなどを行っている。情報コーナーがあり、絵本と一般書籍・育児雑誌の閲覧、地域の育児情報の提供を行っている。相談では、臨床心理士、保育士、助産師、栄養士など専門の方を外部から招くこともある。

赤ちゃんの時期からの仲間づくりとしてBP（ベビープログラム）などの講座を実施している。「教育と女性の自立支援事業」として、子育て関係の講座・手作り講座・ボランティア講座・ベビーマッサージなどを実施している。

拠点事業の他に6か月から就学前までの子どもの一時預りをしている（地域密着Ⅱ型）。

地域の特色に合わせた支援としては、山形県は働く女性が多く女性の社会進出が全国トップクラス。IT講座や、保育士資格取得サークルもありそこから保育士になった方もいる。3世代同居率は全国1位であるが、核家族化が進行し、子育てを地域全体でサポートする社会へと変化しており、拠点としての活動の重要性は高まっている。

その他の取り組みとしてコミュニティ・カフェや、ひとり親家庭母子のための子育てサロン、訪問型子育て支援「ホームスタート」も実施している。また、山形は東日本大震災後の避難家庭が多く、その子育て家庭の支援にも取り組んでいる。



【バズタイム】

松田妙子さん グループトーク「今までの話を聴いて何を思ったか」

各グループ自己紹介をしてから、感想、それぞれの現状・悩み・工夫を共有した。



【コーディネーターより問題提起】「拠点の毎日を考える」

松田妙子さん NPO 法人せたがや子育てネット 代表理事

拠点の特徴を捉えなおして考える必要がある。地域性・建物の状況・利用者の来所方法・周囲との関係性・他の資源との兼ね合い等々。

「こんなことがやれたらいいな」が生まれてくる場をつくる。例えば利用者さんとの日常会話の中で、いろいろな形で巻き込んでいく声掛けや活動が出来ればと思う。また、カレンダーに載せていないその場の活動の工夫も大事にする。

利用者は多分野、プロ集団の宝庫、そして地域には、いろいろな方がいる。声をかけてネットワークを作り活動に繋いでいく。自治体の事業計画は大事。情報を得て積極的に活用する。



新澤さんよりコメント

子育て支援は発想の大転換があった。「何かしてあげる、教える」という支援から、「どのように関わったり、エンパワメントできるか」という発想に変わった。多機能型の支援では、いろいろなニーズを拾いやすく、しっかり関わっているつもりになってしまいがちだが、多機能だからニーズが見えてくるわけではなく、見ようとする気持ちが大事。目の前にいる人との関わりを丁寧に行い、いつも来ている人たちに教えてもらうというスタンスも大切。利用者の苦情を聞き入れ、いわゆる常連さんの本音も聞いてみる。

来ている目の前の人のことが、本当に見えているのか、アプローチの距離感はどうかといったことを意識してみるといいと思う。

グループトーク

「こんなことやれたらいいな、そのためにこんなことからやってみよう」というテーマのもとにグループで話し合った。パパを巻き込む工夫、入りやすい入口の工夫、利用者のスキル活用、産前産後のサポートプログラム等様々な発表があった。

香取さんよりコメント

拠点の普段の取り組みが大切であり、地域の状況が違う中で、地域のニーズに気付き、拠点としての理念を持って活動していくことが重要である。また、市町村主体の事業であることから、行政の事業担当者に皆さんの取り組みを理解してもらうことも大切である。